

別室の立ち上げと不登校生徒への理解

不登校生徒の状況

対象生徒は、中学校 1 年生の夏休み明けから、授業への理解や学級になじめないことが原因で登校を渋るようになり、年度の後半から不登校になった。一時、SC ともつながるが家から出られなくなった。進路を意識するようになった中学校 3 年生での面談を機に別室登校を始める。

具体的な取組

- 不登校巡回教員連絡会で得た成果を巡回担当校に還元

不登校を出さない「未然防止」の視点から、教室での授業支援を行っている。



◀支援員による授業支援▶

- 支援会議の参加

不登校生徒や家庭についての理解と適切な対応を図るため、情報を共有している。



- 不登校生徒や保護者への対応の強化
担任と連携し、保護者との電話連絡・面談を通して、当該生徒・保護者の状況を把握している。今後も当該生徒や家庭に不安感や疎外感がないように学校からの関わりを継続していく。

- SC・SSWや関係機関等との連携
担当SC・SSWから、当該生徒や家庭への適切な支援についてアドバイスをもらい、家庭等への関わりを継続させていく。



成果

家から出られない状態であった生徒が、本人の進路への関心の高まりから別室への登校を促した。結果、週 1 日のペースで別室登校できるようになり、進路に向けた支援を続けている。

課題

週 1 日の巡回指導で、全ての当該生徒に関わるのが難しい。また、学校の実情に合わせた取組をする必要がある。

関係機関と連携した不登校対応

不登校生徒の状況

対象生徒は、小学校 5 年生から不登校となり、保健室登校も難しい状況だった。中学校では、入学式と面談に出席したのみであった。家族内のコミュニケーションは良好だが、友人とは連絡をとっていない状態である。

具体的な取組

○不登校巡回教員連絡会で得た成果を巡回担当校に還元
不登校を出さない
「未然防止」の視点から、教室での授業支援を行っている。



○不登校生徒の情報収集及び校内で統一した対応
不登校生徒・家庭についての理解と適切な対応を図るため、支援会議を通して情報（状況や支援内容など）を全教職員に共有している。

○不登校生徒や保護者への対応の強化
登校ができない生徒に対して、巡回教員が担任と連携して当該生徒や保護者に関わることで、面談や定期的な家庭訪問等を継続して行うことができ、家庭に不安感や疎外感がないようにしている。

○SC・SSWや関係機関等との連携
保護者との連絡や家庭訪問について、担当SSWと相互に情報交換を行い、学校とともに当該生徒への支援体制を構築している。

成果

母親と担任との定期的な面談に加えて、巡回教員との面談を行うことができた。本人は登校できない状態だが、今後も家庭訪問等の機会を通して、学校と当該生徒・保護者との信頼関係の構築を図っていく。

課題

SSWとの連携を通して、不登校の要因となっている家庭への福祉面からサポートしていく。

不登校の校内体制の整備について

不登校生徒の状況

対象生徒は、小学校5年生での転入を機に登校を渋るようになった。中学校入学後間もなく不登校となり、教育支援センターに通うがなじめず、家から出られない状態となった。中学校3年生への進級を機に、別室登校を始めた。

具体的な取組

○不登校巡回教員連絡会で得た成果を巡回担当校に還元

不登校が長期化した生徒に向けた居場所づくりを目指している。



○不登校生徒の情報収集及び校内で統一した対応

不登校生徒・家庭についての理解と適切な対応を図るため、支援会議を通して情報（状況や支援内容など）を全教職員に共有している。

○不登校生徒や保護者への連携の強化

保護者との電話連絡・面談や定期的な家庭訪問を通して、本人・保護者の状況を把握している。

家庭に不安感や疎外感を与えないような学校からの関わりを継続している。

○S S Wや関係機関等との連携

保護者との連絡や家庭訪問について、担当S S Wと相互に情報交換している。



成果

進路に対して明確な目標「動物の飼育に関する仕事」をもち、各種の検定試験に向け努力を続けた結果、いくつもの資格を取得できた。現在はその自信を糧に受験勉強に熱心に取り組んでいる。

課題

自己肯定感を高め、不安な気持ちを克服することができた。今後は進路先での集団で生活できるスキルを身に付けられるようにする。

不登校対応巡回教員の取組について

不登校生徒の状況

対象生徒は、小学校から長期にわたって不登校の生徒である。不登校対応巡回教員が家庭訪問を繰り返したことで、校内別室に登校することができるようになった。

具体的な取組

○不登校対応巡回教員連絡会で得た成果を巡回担当校に還元

不登校を出さない「未然防止」の視点から、教室での授業支援を行っている。



○不登校生徒の情報収集及び校内で統一した対応

不登校生徒とその家庭の状況や支援内容などについて理解し、適切な対応を図るために支援会議を実施し、全教職員で情報を共有している。

○不登校生徒や保護者への対応の強化

保護者との電話連絡・面談や定期的な家庭訪問を通して、当該生徒と保護者の状況を把握している。また、家庭に不安感や疎外感を与えないように学校からの関わりを継続している。

○S S Wや関係機関等との連携

保護者との連絡や家庭訪問について、巡回教員が担当S S Wと相互に情報交換を行い、一緒に家庭訪問を実施している。



成果

巡回教員による定期的な家庭訪問により、当該生徒、保護者と信頼関係を築くことができ、それまで外出することができなかった当該生徒が、少しずつ外に出られるようになった。また、普段から授業観察を行い、生徒たちと交流することにより、不登校の未然防止につながっている。

課題

今後もS CやS S W等と継続して連携し、家庭が抱えている諸問題の解決を図り、不登校の原因を探り、校内で共有していく。

不登校生徒の理解を踏まえた不登校対応

不登校生徒の状況

対象生徒は、卒業まで私立小学校に通っていたが、家庭環境の変化を契機に6年生途中から不登校になった。写真撮影が趣味で、休日は主に鉄道風景を撮りに行くことを続けている。別室には、夏休み明けから登校するようになり、現在は週2、3日を目安に登校している。

具体的な取組

○別室対応による不登校生徒の支援

当該生徒が安心して過ごすことができるよう本人が撮影した作品を飾るなど、別室の環境整備を進めている。



◀別室での生徒作品▶
(鉄道写真)

○不登校巡回教員連絡会で得た成果を巡回担当校に還元

不登校を出さない「未然防止」の視点から、教室での授業支援を行っている。



○不登校生徒や保護者への対応の強化

学級担任と連携し、保護者との電話連絡を通して、当該生徒・保護者の状況を把握している。また、別室利用を考えている生徒や保護者への案内や面談を通して、不登校生徒の実態に応じた支援を提案している。

○不登校生徒の情報収集及び校内で統一した対応

不登校生徒・家庭についての理解と適切な対応を図るため、支援会議を通して情報（状況や支援内容など）を全教職員に共有している。

成果

別室へ登校できるようになってからは、支援員からのアドバイスにより、早期に自習の習慣を身に付けることができている。現在は、自分から検定試験に向けた目標を設定して取り組んでいる。

課題

対人関係に不安をもっているため、コミュニケーション能力の育成に向けて、在籍学級との交流の機会を少しずつ設定していく。